トイレのオールジェンダー利用に関する研究 その４
トランスジェンダーの多機能トイレの利用実態と課題

正会員 ○日野 晶子* 岩本 健良***
同 高橋 未樹子**

オフィス 公共施設 トランスジェンダー
LGBT 多機能トイレ 意識調査

1. はじめに

本研究は、性自認に関わらず、誰もが安心して快適に利用できるトイレの環境整備をめざしている。既報 [1]その 2 では、トランスジェンダー[注1]（以下、トランス）の多機能トイレのニーズの高さ、同トイレを利用したくてもできない等の課題を明らかにした。また前報でも、多機能トイレに関するトランスのストレスについて報告した。

一方、多機能トイレは特に公共施設において利用集中が問題となり、国交省の「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」にて「トイレの機能分散」が推奨されている。現最新の 2021 年 3 月版では、異性介助に配慮した「男女共用トイレ」の利用者として「性的マイノリティ」が明記された。同時に、利用対象者を明確にした「高齢者障害者等用便房（以下、バリアフリートイレ）」が新たに位置付けられ、その表示の際は「「多機能」「多目的」等、利用対象とならない方を含め、誰でも利用できるような名称ではなく」との一文が追加された。加えて同省は、バリアフリートイレの適正利用を目的に啓発ポスターを作成しているが、利用対象者としてトランスジェンダー等性的マイノリティは記載されていない [2]。男女共用トイレが十分に普及しているとは到底言い難い現状の中、バリアフリートイレの利用もしづらくなると、外出先のトイレ利用が益々困難になるトランスが出てくることが懸念される。

そこで本報では、トランスの多機能トイレの利用実態を明らかにするとともに、その課題について考察する。

2. 調査方法

その 3 同様、諸条件で抽出したシスジェンダー[注1]（以下、シス）計 1,000 人（20～59 歳性年代均等割）、トランス計 325 人（20~59 歳、FTM：50 人、FTX：105 人、MTX： 83 人、MTF：87 人）に対し、インターネット調査を行った。

3. 調査結果

3-1. 多機能トイレの利用状況

まず多機能トイレの利用状況を把握するため、オフィス（職場に多機能トイレがないと回答した人を除く）と公共施設での利用状況を尋ねた結果を図 1 に示す。

全体的に、シスよりもトランスの方が利用率は高く、日常的に利用している人の割合は、公共施設よりもオフィスの方が高い。トランスは、オフィスでは 30.9%、公共施設では 20.6%が日常的に利用している。一方、状況によって利用する人の割合は、オフィスよりも公共施設の方が高い。日常的利用と合わせると、両施設共にシスは約 5 割、トランスは約 7 割にのぼった。

また、「職場に多機能トイレがない」と回答した人のうち、同トイレの利用を希望しているシスはわずか 1.2%だが、トランスは 21.3%であった。なお、「多機能トイレがない」と回答したトランスは、勤務フロアの人数が 30 人未満で 56.2%を占め、6 割近くであった。

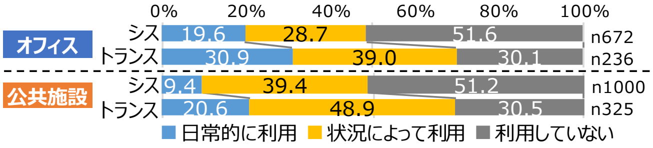

図 1. 多機能トイレの利用状況

3-2. 日常的に利用する理由

次に、日常的に利用する理由を尋ねた結果を、トランス降順にて 8 位まで図 2 に示す（選択肢 14、複数回答）。

シスは、「特に理由はない」が最多であった（図では表示ランク外：オフィス 30.3%、公共施設 21.3%）。トランスは、オフィスでは「広い」「性別に関係なく使える」が 23.3%で同率 1 位、「落ち着く」が 21.9%で続いた。公共施設では「誰が利用してもよい」「性別に～」が 32.8%で同率 1 位、次いで「いろんな人が使うので目立たずに使える」が 28.4%であった。これらはシスとの開きが大きく、特に「性別に～」は 21.1 ポイント、オフィスでも 13.5 ポイント差があり、両施設共シスとの差は最大であった。

また、「誰が利用してもよい」「いろんな人が～」は、さまざまな人の利用が想定された多機能トイレならではの理由であり、「目立ちたくない心理」がうかがえる。

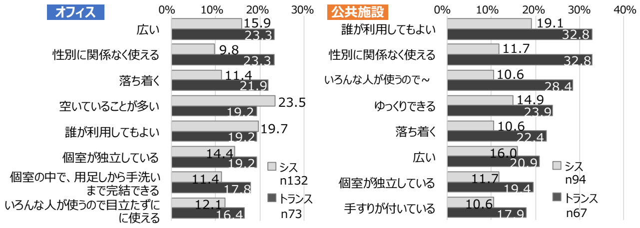

図 2. 多機能トイレの日常的利用理由（トランス降順 8 位）

3-3. 多機能トイレを利用する状況

さらに、利用する状況を尋ねた（選択肢：オフィス 14、

HINO Akiko, TAKAHASHI Mikiko
IWAMOTO Takeyoshi

公共施設 15、複数回答)。シスは、オフィスでは「我慢できないとき」、公共施設では「一般トイレが混んでいるとき」が 1 位であったのに対し、トランスは「誰も使っていないとき」(オフィス 25.0%、公共施設 30.8%)であった。前項同様「目立ちたくない心理」がうかがえる。「性別を問わないトイレを使いたいとき」は、オフィスではシス 4.1%(その他を除く最下位)、トランス 15.2%(6 位)、公共施設では 3.6%(同)、25.2%(5 位)で両者の差が最大であったことからも、トランス特有の重要な点といえる。

3-4. 多機能トイレを利用しにくい、気まずいと感じる理由

前報のストレス理由に、多機能トイレの利用し難さや気まずさがあった。そこで、利用し難い、気まずいと感じる理由を尋ねた結果を、トランス降順にて 5 位まで図 3 に示す(選択肢:オフィス 10、公共施設 12、複数回答)。

シスは、両施設共「車椅子の人など障害のある人が優先または専用のトイレだと思う」が 1 位、オフィスでは「数が少ない」「健常者なのになぜ使うのかと思われそう」、公共施設は「車椅子の人など障害のある人の利用を妨げるかもしれない」「健常者なのに～」と続いた。トランスは、両施設共「健常者～」が約 4 割で 1 位。オフィスでは「数が少ない」「LGBT など性的マイノリティではないかと思われそう」が 3 割弱、公共施設は「障害のある人が優先～」「障害のある人の利用を～」が 3 割超で続いた。

オフィスでは「数の少なさ」、公共施設では「他者への遠慮」、共通して「他人の目が気になる」傾向がみられた。

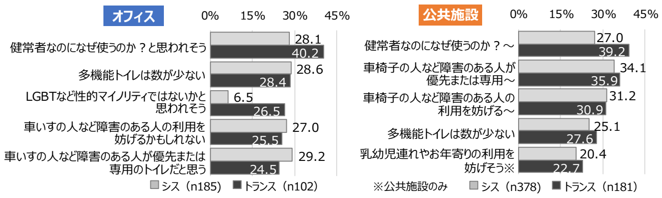

図 3. 多機能ﾄｲﾚを利用し難い、気まずい理由(ﾄﾗﾝｽ降順 5 位)

3-5. 多機能トイレを利用すべき人、利用してもよい人

ところで、そもそも多機能トイレはどのような人が利用すべき、あるいは利用してもよいと考えられているのだろうか。「誰が利用してもよい(排他)」の他、「車椅子使用者」「乳幼児連れ」、「トランスジェンダーなど性的マイノリティの人」等、計 15 属性から、利用してもよいと思う人を複数回答で尋ねた。結果、「誰が利用してもよい」が最多となり、シス 49.1%、トランス 38.2%であった。「トランスジェンダーなど性的マイノリティ」は、シス 16.3%、トランスでは 5.5 ポイント高い 21.8%であった。

4.まとめと考察

1)多機能トイレを利用する人は、日常的、状況による利用を合わせてシス約 5 割、トランス約 7 割。日常利用はオフィスの方が、状況による利用は公共施設の方が多い。

2) トランスが多機能トイレを利用する際、性別に関係なく利用できる他、特に公共施設では「いろんな人」や「誰でも」が利用する中で紛れることが重要であり、「誰も使っていないとき」を選んで利用している。背景として「目立ちたくない心理」があると考えられる。

3) 施設を問わず、シスの約半数、トランスの約 4 割が多機能トイレを「誰が利用してもよい」と回答。この中にトランスも含まれると想定すると、「トランスジェンダー等性的マイノリティ」を利用者と認識している人は、6 割以上と考えられる。反面、利用し難い、気まずいと感じる人もおり、背景として「他者からどう見えるか」への不安、「他者(主に障害のある人)」への遠慮がうかがえる。さらにトランスでは、「自身が性的マイノリティだと思われること」への恐れも感じられる。

4)トランスが勤務するオフィスは小規模のものも多く、多機能トイレがない場合も少なくない。実際、多機能トイレがないオフィスでは、トランスの約 2 割が同トイレの利用を希望していた。多機能トイレの利用集中は公共施設ほど深刻ではないと想定され、オフィスでは、まずは多機能トイレの設置が解のひとつと考えられる。

5) 多機能トイレを日常的に利用する理由を総合すると、「性別に関係なく、落ち着いて利用できる広めの個室トイレ(以下、男女共用広めトイレ)」の潜在ニーズが浮かび上がる。公共施設では、機能分散の一環として「男女共用広めトイレ」の設置が解のひとつと考えられる。また、規模の大きなオフィスでは、車椅子使用者用トイレとの併設も有効と考えられる。但し、トランスの「目立ちたくない」「性的マイノリティと思われたくない」との心理に配慮した工夫が求められる。また、目立ちたくないが故に多機能トイレを利用するトランスもおり、多機能トイレの選択肢も必要と考える。

6) バリアフリートイレについては、「誰が使うか」よりも、「どう使うか」の視点に転換し、排泄とそれに伴う行為以外を禁止する方法を検討すべきではないか。また、「数が少ない」も利用し難い理由のひとつであり、利用集中の問題は「機能分散」に加え、「数を増やす」ことも必須と考える。

今後は、男女共用トイレの利用意向等の分析を進める。

注 1)シスジェンダー、トランスジェンダーおよびトランスジェンダー区分については本研究その 3 を参照。

参考文献

1) 高橋未樹子, 日野晶子, 岩本健良, 「トイレのオールジェンダー利用に関する研究」(その 1-2), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2023 年

2) 国土交通省, 高齢者障害者用施設等の適正利用推進キャンペーンポスター(2023 年度)バリアフリートイレ編 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/content/001443243.pdf

*株式会社 LIXIL

**コマニー株式会社 博士(人間環境デザイン学)

***金沢大学 人文学類 准教授 文修

*LIXIL Corporation

**COMANY INC. Dr. Human Environment Design

**Assoc.Prof, School of Humanities, Kanazawa University, M.A